

## 平成 29 事業年度業務実績報告（案）の概要

### 1. 重点項目の進捗状況、成果及び評価

#### (1) 概況

島根県立大学憲章の前文に掲げる「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」、「北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学」の実現に向け、4つの重点分野を設定し積極的に取り組んだ。

#### (2) 重点分野及び成果

##### 重点分野 1：社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革

- 松江・出雲キャンパスでは、新学部設置等に係る認可や指定の手続き、施設整備を着実に実施し、新たな4年制学部の開設を柱とする学部・学科の改編を予定通り実現した。新学部設置等により、キャンパスの教育環境を格段に充実させた。
- 浜田キャンパスでは、将来構想の実現のための改革本部を立ち上げ、総合政策学部の改編や県内入学者比率の向上などを目的とした全学入試制度の見直し等の検討を開始した。

##### 重点分野 2：地域と協働した社会貢献の推進

- 連携自治体等からの助言・指導等のフィードバックを通じて「しまね地域マイスター」課程の能力向上を図ることで、地域課題に取り組む実践力を持った人材の育成に着実に取り組んだ。
- 県内各機関との連携・協力を強化したことで、学生が県内企業を知る機会を増大させた。
- 松江キャンパスでは、幼稚園・小学校を中心とした出前の読み聞かせが喜ばれている点や、大学をあげて地域貢献を行っていることが評価され、島根県から県民いきいき活動奨励賞を受賞した。
- 松江キャンパスで開講している「履修証明プログラム」では、平成28年度からの2年間コースでのべ190名（実人数：78名）の履修申込みがあった。2年間コースの履修証明プログラム受講者のうち3名が120時間以上のプログラム履修を達成し、学校教育法上の履修証明書交付の対象となった。

##### 重点分野 3：学生確保、教育内容及び学生支援の充実強化

- 志願倍率、実質倍率については、以下のとおり。

|              | 志願倍率          |               | 実質倍率          |               |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|              | 29年度入学        | 30年度入学        | 29年度入学        | 30年度入学        |
| 総合政策学部       | 5.07倍         | 5.42倍         | 2.66倍         | 2.72倍         |
| 看護栄養学部(看護)   | 3.60倍         | 3.73倍         | 2.79倍         | 2.82倍         |
| 看護栄養学部(健康栄養) | 1.63倍<br>(短大) | 3.35倍<br>(四大) | 1.53倍<br>(短大) | 2.61倍<br>(四大) |
| 人間文化学部(保育教育) | —             | 3.25倍         | —             | 2.52倍         |
| 人間文化学部(地域文化) | —             | 3.07倍         | —             | 2.08倍         |
| 短期大学部(保育)    | 2.22倍         | 3.75倍         | 1.63倍         | 2.53倍         |
| 短期大学部(総合文化)  | 2.71倍         | 4.20倍         | 1.49倍         | 2.44倍         |

- 就職率は、浜田キャンパスが96.1%、出雲キャンパスが100%、松江キャンパスが98.0%といずれも高水準を維持した。
- 平成29年度から全キャンパスで本格的に授業公開を実施し、授業改善を推進した。

#### 重点分野4：国際交流、海外留学等の促進

- 北東アジア地域研究センターが、平成29年度で2年目となる「北東アジア地域研究推進事業」を着実に進め、前年度に開催した国際シンポジウムの成果を『北東アジア研究』別冊第3号として発行した。また、研究のプロセス・成果を反映した学部授業や公開講座を実施するなど、教育活動及び地域社会等へ還元を図った。
- 学生自らが計画する様々な海外活動を支援する制度「海外実践活動支援制度(GLOBAL DREAM HUNT)」を創設し、個人2名、団体1(4名)の支援を行った。
- 多様な海外短期研修プログラム等の周知に注力した結果、「海外留学者数、海外研修、内閣府海外派遣事業等の参加者数について、年間180人以上をめざす。」とする目標(中期計画数値目標)に対して、平成29年度は165人(平成28年度：147人)となり、数値目標達成に向けて着実に増加させることができた。

## 2. 業務実績の評価方法

- 法人が自己評価を行い、これをもとに島根県公立大学法人評価委員会が検証・評価を実施。
- 「大学の教育研究等の質の向上」以外の中期目標項目については、5段階で自己評価。  
(「教育研究等」については、評価委員会が「特筆すべき点」「遅れている点」として評価)

| 評価 | 基準              |
|----|-----------------|
| AA | (評点平均値 4.3~)    |
| A  | (評点平均値 3.5~4.2) |
| B  | (評点平均値 2.7~3.4) |
| C  | (評定平均値 1.9~2.6) |
| D  | (評定平均値~1.8)     |

## 3. 実施状況

- 自己評価の状況

|     | 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり | 自主的、自律的な組織運営体制の確立 | 評価制度の充実及び情報公開の推進 | その他業務運営に関する重要事項 |
|-----|----------------------|-------------------|------------------|-----------------|
| H29 | A (4.00)             | A (3.95)          | A (4.00)         | A (3.95)        |

## 4. 総評

- ・中期計画の達成に向けて平成29年度計画は十分に達成できたものと判断。
- ・地方創生における大学の役割に期待が高まる中で、県内入学者の増加、地域人材育成のための教育プログラムの充実、卒業生の県内定着に向け一層の取り組み強化を図っていく。また、浜田キャンパス将来構想の実現に向けた取り組みを着実に実施する。